

第2回三重県環境審議会三重県廃棄物処理計画部会発言概要

日時：令和2年8月7日（金） 9:30～11:45

場所：三重県教育文化会館 第2会議室

出席者：小川（和）委員、小川（喜）委員、片野委員、小林委員、
酒井委員（部会長）、宍倉委員、花嶋委員、堀川委員、吉住委員

はじめに

安井廃棄物対策局長：

- ・委員の皆様には、お忙しい中、また、暑さが厳しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、ご出席いただき重ねて感謝申し上げます。
- ・県では昨年度、三重県環境基本計画を改定し、「循環型社会の構築」を4つの大きな目標のひとつとして掲げた。循環型社会の構築に向けて、これまでの取組の延長線上ではない取組が求められていると考えており、取り組むべき課題は山積している。
- ・次期計画では、廃棄物政策を取り巻くさまざまな環境変化に県としてしっかり対応していく必要があると考えており、これまでの取組の良いところはさらに伸ばし、廃棄物の3Rの促進、不適正処理の撲滅ということに取り組み、新たな課題にも果敢に挑戦していくことが求められている。
- ・その際、留意すべきこととして2点あると考えている。1つは、三重県の特性を生かし、三重県ならではの取組の展開が大変重要であると考えている。もう1つは、廃棄物行政は、法律で国、県、市町の役割が決まっているが、県の役割や、県の優位性といったものを十分踏まえて効率的、効果的に取り組んでいく必要があると考えている。
- ・廃棄物政策において新たな政策を始めるチャンスだと考えている。三重県から循環型社会の構築を進めていくための計画とするため、委員の皆様から多大なご協力を賜りたい。

議事 次期の三重県における廃棄物処理計画の基本的な考え方について

<議論に先立ち、酒井委員が部会長に選出された>

【電子マニフェスト】

花嶋委員：

- ・ICTの活用を進めるというのであれば、電子マニフェストについて取り締まるためだけでなく、電子マニフェストのデータをICT等にもっと活用でき

るようにはどうか。

【認定リサイクル製品】

片野委員：

- ・リサイクルはモノからモノが基本となる。認定リサイクル製品のPRをより充実させれば、販売ルートも増え、市民の意識も高まってくると思う。

花嶋委員：

- ・以前に全国のリサイクル製品の認定制度について調査したところ、多少金額が高くても買う割合が高いといった話があったのが三重県だったように思う。
- ・現在は認定リサイクル製品数が減少しているということだが、チラシによる啓発だけでは活用が進まないのでは。三重県の各部署が購入するものをリスト化したものがあれば、業者側もアプライしやすいと考える。県としてもう少し積極的な姿勢があったほうがいいのではないか。

酒井部会長：

- ・他部署も含め県庁で一体となって取り組まないと、なかなか進まないことだと考える。新しい循環型社会を三重から発信するという高い目標を掲げているので、ぜひ取り組んでいただきたい。

【排出事業者責任】

小川（喜）委員：

- ・不法投棄等の是正措置の推進と早期発見の項目で、路上での合同検査や運転者に対する啓発活動を行うとあるが、運搬車輛というのは、廃棄物を運んでいるアイテムであり、それよりも排出事業者責任がある元請業者がどこまで理解しているかが重要であり、県でももう少し排出事業者への啓蒙活動をして頂きたい。
- ・電子マニフェストは便利であり、利用しているが、大手企業は他のASP業者も活用しており、現場では両方に対応する必要が生じているため、余計手間になってしまっているほか、本来の排出事業者責任が果たされていないと感じる。

酒井部会長：

- ・色々電子化されてきており、便利になってきているはずが、それぞれの連携が十分取れていないため、紙ベースでも提出の必要があるなど、余計に大変になっていると感じている。県として、一度整理のうえ使いやすいやり方を検討していただきたい。

片野委員：

- ・排出事業者の方が収集運搬事業者よりも立場が強いため、排出事業者の言いな

りになっている。排出事業者が排出責任を負うので、県は広報といった形だけでなく、説明会等を通じて、排出事業者の担当者に排出事業者責任を説明して理解してもらうことで、不法投棄の削減、減量化にも繋がるため、そのような機会を増やしていただきたい。

【SDGs】

堀川委員：

- ・SDGsの中でも触れられているが、プラスチック対策や食品ロス対策だけでなく地球温暖化対策が非常に大きな問題となっているので、廃棄物と温暖化対策の関連性も含めて項目に加えていただきたい。
- ・SDGsの観点からすると、食品ロス対策の中でフードバンクや子ども食堂との連携について記載がない。

酒井部会長：

- ・SDGsを前面に出すのであれば、取組が17の目標に対してどのように関連しているのか、施策や部署間の連携について考慮して記載していただきたい。

片野委員：

- ・SDGsの取組に繋がるフードバンクや子ども食堂というのを県や市町と連携して計画に具体案を載せていただきたい。やはり、未来を担う子どもたちにとって食はとても重要になってきており、各種団体等とも連携して具体的な案を出していただきたい。

【災害廃棄物対策】

吉住委員：

- ・災害廃棄物スペシャリストの育成について、人事異動があること、災害時には広域連携が必要であることから、途切れることなく今後も継続して人材育成事業は進めていただきたい。

片野委員：

- ・災害の件で、熊本の豪雨では、コロナの影響で県外からのボランティアが入れないといったことがあった。三重県内でも同じことが発生する可能性があり、早い段階でコロナ対策を踏まえた災害廃棄物対策を検討しておくべきではないか。

【一般廃棄物】

花嶋委員：

- ・県が県内の市町の有害廃棄物対策、適正処理困難物対策等本当に困っていることをヒアリングしているのか疑問に感じる。三重県は小さな自治体が多くあ

るので、もっとしっかりとヒアリングをして、拾い上げることが重要なのではないか。

小川（和）委員：

- ・ステイホームの期間中に家庭菜園をする人が増えたと聞きます。そこで、生ごみの堆肥化の需要が出てきていると思うが、四日市市では生ごみ堆肥機器への補助があるが、ない市町もあると聞きます。県独自でのそういった施策は検討されているのか。

【食品ロス】

小林委員：

- ・食品ロス削減の関係で、このコロナ禍で、外出自粛の影響等でまとめ買いして食材を余らせてしまう、また使い捨て容器を多く使うようになりプラスチックごみも増加してしまうといった問題もあるが、今後も食品ロスの削減、無駄をしない、捨てないといことを今後も継続していきたいと考えている。

【循環産業等の振興】

花嶋委員：

- ・「循環産業等の振興による3Rの推進」という項目が次期計画の取組方向の1つに挙げられており、これは元々廃棄物処理計画だったので最初に廃棄物ありきでそれをどう使うかという話になってしまうが、やはり公共でどのようなものをどれほど利用しているかというデータがあれば、それに対して新たな産業やマーケットができ、民間の力による資源循環が進むのではないかと考える。

【計画全般】

酒井部会長：

- ・Society 5.0について、IoTやICTを廃棄物行政にどのように取り入れていくのか、先を見越して目標や取組をどうしていくのかを考えることが大変重要。

酒井部会長：

- ・現状、高齢化問題をどう見ていくかという視点が抜けているように思う。それをSociety 5.0で進めようとするとなんなデータや技術が必要になり、実際に動かす際には将来の三重県尾人口構成も含めてかなり考えないといけない。本当に時代が変わる時期でもあるので、是非検討していただきたい。